

## まえがき

下野谷遺跡の発掘調査は、昭和 50 年に『東京都保谷市の無土器文化』に調査報告の一部が記載されている（むさしの台地研究会）。以後、下水道工事や早稲田大学の施設建設、民間の集合住宅建設に先立って何回か調査が行われ、平成 15 年で 11 次調査が実施され、縄文時代を考えるうえで、貴重な遺跡資料を提供することとなった。石神井川流域では、唯一の縄文時代中期の「環状集落」が確認された。「環状集落」とは、環状に住居群が分布する中央部分に墓域が形成されるという集落形態で、全国的にみても数少ない貴重な遺跡であることが判明した。

しかしながら、いままでの発掘調査は開発前提の緊急調査であり、貴重な遺跡は記録保存という名目で失われてしまった。今回の史跡公園対象用地は下野谷遺跡の周知範囲であるが、「環状集落」の外側に位置する。過去の調査で多数の住居跡が確認されており、縄文時代中期の集落が存在する。この集落が「環状集落」に取り込まれる住居分布を示すのか、あるいは環状形態をとらないが別の集落を形成するのか、さらにもうひとつの「環状集落」を形成するのか、今後の調査に期待したい。この公園対象地となっている部分では集落形態など不明な点が多いが、下野谷遺跡を将来にわたって保護していくために、史跡として用地を獲得できたことは行政の理解だけではなく、偏に「遺跡を守りたい」という市民の願いの賜物と考えられる。

史跡公園用地を獲得して、市民の声を少しでも反映させる方向性で「史跡公園整備構想懇談会」が発足し、文化財保護審議会、郷土史家、市民代表 3 名（公募）、公園緑地課職員、社会教育課職員の構成員で 5 回懇談会が行われた。懇談会には市民の傍聴人などから積極的な意見が出され、また、市当局でも公園用地周辺住民の説明会や解説パンフレットなどを作成し、地域住民の理解を求めた。このような市民の意見を取り入れまとめたものが「下野谷縄文公園の実現に向けて 西東京市史跡公園整備構想報告書」である。史跡公園整備にあたってこの報告書が市民の声として十分活かされることを強く望む。下野谷遺跡が、市民だけでなく、国民の貴重な財産として、将来にわたって保護し、活用されることを願う。

平成 17 年 3 月

西東京市史跡公園整備構想懇談会  
座長 都築恵美子

## 目 次

## 第1章 整備構想策定にあたって

1 - 1 整備構想策定の目的	1
(1) 整備構想策定の背景	1
(2) 整備構想策定の目的	2
1 - 2 下野谷遺跡の概要	3
1 - 3 計画地の条件	5
(1) 計画地の立地条件	5
(2) 上位計画等の状況	8

## 第2章 史跡公園整備構想

2 - 1 基本的な考え方	9
(1) 史跡公園の目標	9
(2) 史跡公園の基本理念	9
(3) 史跡公園の基本方針	9
(4) 利用対象	11
2 - 2 ゾーニング及び動線計画	12
(1) ゾーニング	12
(2) 動線計画	12
2 - 3 整備構想	13
(1) 主な施設の考え方	13
(2) 関連施設の考え方	15
(3) 施設配置イメージ	16
(4) イメージ・パース	18

## 第3章 今後に向けて

3 - 1 今後の課題	19
3 - 2 各委員のコメント	20

## 関連資料

1 西東京市史跡公園整備構想懇談会	21
2 下宅部遺跡はっけんのもり	22
3 近隣の史跡公園	26